



## ☆ 安全と安心と の巻 ☆

今回は「からだの休息とこころの娯楽」の話をしました。

仏教に「諸行無常」の教えがあります。同じ内容を古代ギリシアの哲学者は「万物は流転する」と言いました。ただ、「諸行無常」では「こころの変化」に重点が、「万物流転」は「物体変化」が大きな要素と違います。何千年もの昔から、精神こころと物体からだの対比が繰り返し述べられています。

そのような視点で見ると「安全はからだ」が傷つかない状態、「安心はこころ」が傷つかない状態と言えるでしょう。

☆

ところで学校生活で子どもが困っている時、カウンセラーさんは、「その子自身の力」で困り感を克服する手助けをする、「目に見えない物事」の変化を促す。スクールソーシャルワーカーは、子どもの「周りの状況を変える」ことで手助けし、そのため「目に見える物事」を動かす事が仕事と言えるでしょう。

		はたらきかけ		
カウンセラー	安心	自力を促す	見えない物事	精神
ワーカー	安全	周りを変える	見える物事	肉体

★

動物は生き残る事が最優先で、からだを守るのに精一杯の生き方です。人間は、安全が保障されるにつれてこころの問題、中でも、人間関係が一番のストレスとなるようです。

困った事に人は、なかなか変わらず、一たびそこにストレスを感じたら弱り果てます。

仏教では「人は修行するため繰り返し生まれて来る」と教えており、人との交わりこそが修行だとしています。修行しなければならぬほどに人間関係は難しいわけですね。

☆☆

子どもの不登校、いじめの根っこには必ず、友人、家族、先生との人間関係のどれかに原因があります。

だから、関わりを持つおとなが、その子との接し方を変えることで不登校もいじめも改善します。逆に、おとな自らが変わろうとしない限り、これらの問題は解決しないのです。

そして、往々にして経験が豊富なおとな、社会的な役割を持つ人ほど自分を変えない努力を重ねて来ています。少々の事では変わりません。それを知っているワーカーは、おとなを変える努力をしないのです。

では、どうやって環境を変えるか。

一言で言うと「視点を変えてもらう」のです。子どもの見方が変わると、おとなのストレスが軽減する。すると子どもとの関係が変わるのです。それほどに、おとなが子どもに与える影響は、大きいのです。

